

。声よふたび。

声帯を失った方に

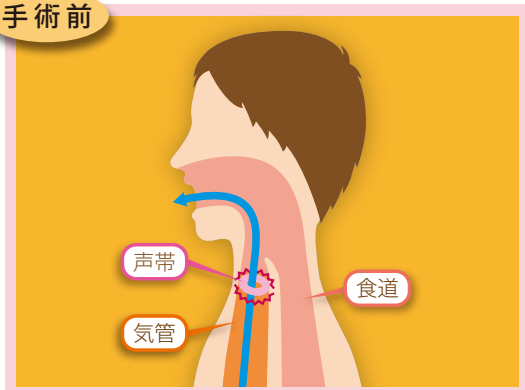


公益社団法人銀鈴会

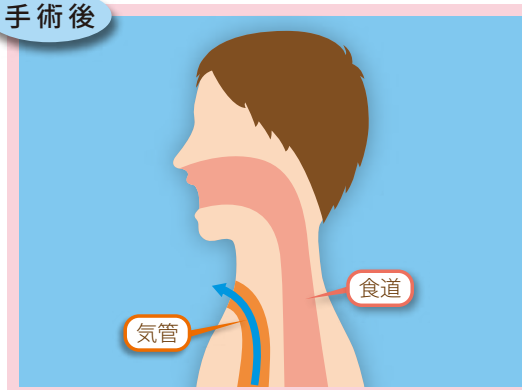
このパンフレットは公益社団法人 日本理学療法士協会の助成を受けて作成しました

手術後の私たちの体

手術前



手術後



- 飲食物や唾液が気管に入ること（誤嚥）がない
- もちがのどに詰まっても死なない
- いびきをかかない
- くしゃみをしても飛沫しない



- 声が出ない
- においがわからない
- 麺類がすすりにくい
- 水泳が出来ない

上記のようなメリット・デメリットがありますが、訓練の結果取り戻せる機能もあります。声は各種の方法や器具で代用音声を獲得することが可能です。

永久気管孔のケア

永久気管孔は清潔に保ち、暑いから、息苦しいからなどと言って、むきだしにするのは危険です。



レジャー

スポーツは、ほとんどの場合問題はなく、ゴルフ・ハイキング・軽登山などが楽しめます。



ゴルフ同好会 高根カントリークラブにて



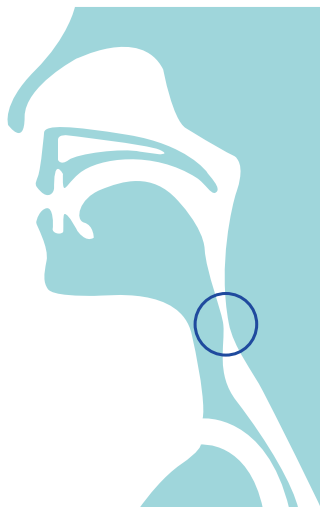
カラオケを楽しむ声友クラブ (OB会) の皆さん



温泉は半身浴で、サウナは絞ったタオルを気管孔にあてて

新しく得られる声について

食道発声



食道に空気を取り込み、ゲップの要領で逆流させ食道の粘膜を振動させて発声する方法です。

いいね!

- 器具などを使わず、自分の体を使って発声するので健常者に近い話し方が出来る
- 習熟すれば、会話に抑揚なども付けられるようになり、より自然な話し方になる
- とっさの発声が出る
- お金がかからない

残念!

- 一般的に習熟に時間がかかる
- 声が小さいので人混みの中や騒々しい場所では、聞き取り難い
- 発声持続時間が短く、頻繁な息継ぎが必要
- 体力や体調に依存するため、高齢になると難しい

EL(電気式人工喉頭)発声



電気の振動を使い、口の中に響かせて構音機構（舌、唇、歯など）を使って言葉にする方法です。

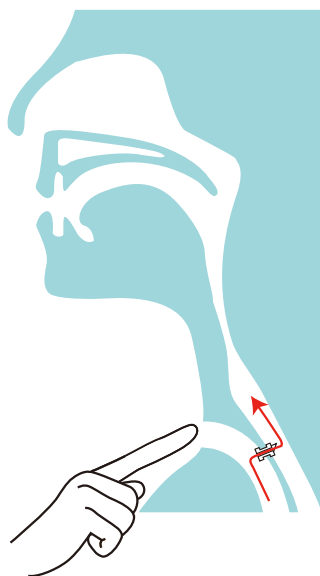
いいね!

- 手術後、早期に会話が可能なので比較的社会的復帰が早い
- 器具の音量調整が出来るので大きい声で話せる
- 身体への負担が少ない
- 呼気を使わないので、息切れがしない

残念!

- 機械音声なので、人の声とは距離を感じる
- 声が平坦になり感情が表現しにくい
- 清音・濁音の出しわけが困難
- とっさの場合に話が出来ない
- 常に携帯する必要がある

シャント発声



気管と食道とをつなぐ器具を挿入し、肺の空気を使って食道をふるわせ音をつくる発声方法です。

いいね!

- 手術後すぐに声が出ることで、早期の社会的復帰が可能
- 肺からの空気を使うので、健常者に近い音量が得られる
- シャント手術を受けても、元に戻したい時は封鎖することが出来る
- 発声持続時間が長い

残念!

- 手術をしなければならない
- 数カ月ごとに病院で埋め込んだ器具の交換をしなければならない
- 埋め込んだ器具の汚れをとるため、日に数回のブラシ掃除が必要
- 自治体によって助成があるが、使い捨ての発声補助具の費用がかかる

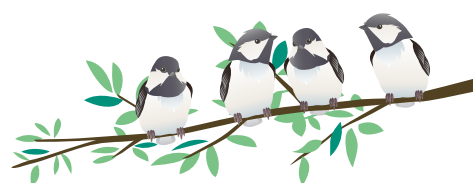
PRACTICE SCENERY

発声教室風景

指導する訓練士も喉頭摘出者です。
銀鈴会では火・木・土、年間100回以上の発声教室を開催しています。
体調など各自の都合で出欠は自由です。
教室は食道発声、EL発声、シャント発声に分れて練習しています。



発声をマスターするまでは個人指導を行っています。
食道発声は初心→初級→中級→上級と会員さんの発声レベルで昇格します。



私たちは銀鈴会を応援しています

応援メッセージ

総合エンターテインメントプロデューサー つんく♂さん（2014年喉頭全摘出：銀鈴会会員）

声帯を全摘出した人にとって、術後の他者とのコミュニケーションは重大な問題です。今まで当たり前のように「はい」や「うん」とだけ答えればよいことも、どう伝えるかを考えなければなりません。

術後すぐは100円均一で売っているようなホワイトボードに文字を書いてやりとりしたものです。向かいあって目を見て話せる状況なら「はい」「うん」も頭をコクリと下げるだけですみますが、日常においては洗い物をする妻からの質問や、トイレからパパを呼んでる子どもへの返事等は駆け寄ってジェスチャーするか、何かに書くしかないわけですね。そんな中、僕は術後半年くらいしてから食道発声の練習に通い始めました。

それがこの銀鈴会です。

妻ともよく話し合いましたが、ひとまずは、シャントや機械を使つての会話を考えず、自力の食道発声をやってみて、無理だったら考えよう。そんな感じで食道発声の訓練を始めました。

ラッキーなことに1ヶ月もしたら、なんとなく会話になって、3月から始めた訓練も夏頃には、単語単語をつなぎあわせて、近距離にいる家族とならば、理解してもらえるようになりました。とはいえ、僕らの敵はノイズ。車の走る音。水道の流れる音。空調や換気扇の音。電車の中など、食道発声の周波数に近い音があると、そこそこの音量で話してもかき消されます。それでも自力で話せることは勇気となります。

あの時銀鈴会の門を叩いて本当によかった。

恥ずかしさや目立ってしまう不安とかいろいろあったけど、現在習得したこの技術で家族と対話出来ることに感謝しております。今はハワイに暮らしているので、なかなか直接的なお手伝いは出来ませんが、これからも微力ながら銀鈴会の応援をさせていただきます。どうぞ、訓練中のみなさまも諦めず、自信を持って続けてください。

その先には明るい未来しかありません！



東京工科大学医療保健学部言語聴覚学専攻 教授 吉原 俊雄先生

私が銀鈴会の活動に携わせて頂いてから、20年近くとなります。耳鼻咽喉科の大先輩である廣瀬肇先生、福田宏之先生の背中をみつつ微力ながら、銀鈴会主導で開催されます発声大会審査委員などを務めさせて頂きました。

喉頭摘出はコミュニケーションで最も大切な発声・発語の機能を失うことになります。女子医大耳鼻咽喉科在職中、不安でいっぱい術前患者さんに銀鈴会でお話を聞いて頂いたり、術後に銀鈴会を紹介し入会後に多くの患者さんが様々な発声法の指導を受けられました。

銀鈴会は訓練士、会員の皆様からの励まし、ご家族を含めた交流など精神的な支柱となる会です。そしてこれまで多くの方がコミュニケーション機能を取り戻し、社会復帰をされていくのを間近で見ることができました。益々の銀鈴会の充実と発展をお祈りいたします。



北里大学医学部 名誉教授 小林 範子先生

銀鈴会とのお付き合いは、とうに30年を超えました。今は主に教室での発声練習のお手伝いをさせていただいています。全く発声できなかった新入会員の方が、目の前でどんどん上手に話せるようになるのを拝見できるのは、この上ない喜びです。

発声教室には常に前向きの姿勢と活気が感じられます。そして笑顔があります。「声を取り戻す」という共通の目的に向って、全員が歩んでいるからだと思います。大きな病と、それに伴う喉頭摘出という困難を経験し、新たな声の獲得という課題に取り組む仲間の存在は、大きな励みになるでしょう。

発声教室をはじめとした銀鈴会の活動の源には、会員の皆様の熱意と努力、そして訓練士の先生方のひたむきな献身と使命感があります。今後とも多くの、そして多種の喉頭摘出後の音声を獲得する方々の大きな力になるものと思っています。



「賛助会員」ご加入のお願い

銀鈴会は、コミュニケーションに必要な声の習得を通して社会復帰、術後の管理ケア、および会員相互の親睦をはかっています。喉頭摘出者の社会復帰という公益的使命を担っていますが、公的な支援は少なく自らの努力を前提として、皆様から会費やご寄付などのご支援をいただき発展してまいりました。創立の「ひとりでも多くの人の声を取り戻す」という理念をもって今後とも努力を続けます。当会の趣旨にご理解をいただき、賛助会員としてお力添えを賜りたくお願い申し上げます。

年会費：法人賛助会員 1口5,000円 6口以上 個人賛助会員 1口5,000円 1口以上
詳しくは公益社団法人 銀鈴会 事務局 まで （メールアドレス：銀鈴会事務局 <office@ginreikai.or.jp>）



発声教室会場

発声教室



事務所



公益社団法人銀鈴会

事務所 105-0004 東京都港区新橋 5-7-13 ビュロー新橋 901
電話：03-3436-1820 FAX：03-3436-3497

発声教室 108-0014 東京都港区芝 5-18-2 東京都障害者福祉会館

ホームページ <https://www.ginreikai.net/>

